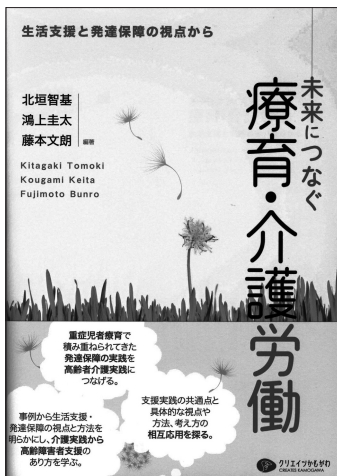


(書評)

『未来につなぐ療育・介護労働—生活支援と発達保障の視点から—』の編者が語る

藤本 文朗*

2014年9月22日受理



未来につなぐ療育・介護労働 生活支援と発達保障の視点から	
はじめに	3
1 〈ケース研究〉ゆたかな生活と発達保障をめざして	9
chap.1 生きる力が光になる—50周年を迎えたびわこ学園の実践から	
1. びわこ学園ということ	阪田 京子※ 12
2. 重症心身障害児者の療育実践 —その人らしさが輝く「みつうの暮らし」を支える	阪田 京子 19
3. 広重症・虚弱児者の療育実践 —医療ケアが必要な人への取り組みについて	田村 和宏※ 33
4. 重症心身障害児者への地域における支援	西島 悟司※ 49
● COLUMN 生きがいづくり	68
chap.2 西宮すなご医療福祉センターの実践から	
1. 西宮すなご医療福祉センターのあゆみと療育実践	鴻上 圭太 72
2. みずきさんのより良い生活のために —他者との関わりを手がかりに	森島みな子※ 77
3. ドリームハウスでの取り組み —強固行動障害のある人に対する発達保障	田中 研次※ 森島みな子 86
chap.3 高齢者・難病介護の実践から	
1. “その人らしい”暮らし	藤部 裕美※ 96
2. 神経難病と向き合いながら自分を 取り戻していった三郎さん	浦野 裕代美※ 108
3. 訪問介護とユリの花	藤本 文朗 小西 由紀※ 123
chap.4 未来につなぐ療育・介護労働—その視点と方法	
1. 「発達保障」と「介護」 それぞれの考えかた／概念からみた共通性	北垣 智基 133
2. 事例から見出される発達保障・生活支援の視点と方法	鴻上 圭太 143
2 療育・介護労働のあゆみとこれからの課題	
chap.1 療育・介護労働のあゆみ	
1. 療育労働のあゆみ	鴻上 圭太 藤本 文朗 160
2. 介護労働のあゆみ	渋谷 光美 170
chap.2 療育・介護に関わる政策・制度と運動的課題	
1. 療育（医療）分野の課題	杉本 健郎 184
2. 介護分野の課題	北垣 智基 199
3. 社会福祉労働の人材養成・研修の課題	藤井 伸生 209
4. 介護・療育労働者の腰痛問題	埴田 和史 218
●スライディングシートを用いた移動の介助方法	富田川 智志 229
chap.3 療育・介護労働の文化と発達保障を考える	
1. 療育・介護の現場で働く人びとに期待するもの	河野 勝行△ 236
2. 介護と療育の福祉文化 —生存競争を「生の協働ネットワーク」に よって転換する姿	池上 惇 245
あとがき	258

まず、表紙、目次をみていただきたい。

この本づくりは私が東京都品川区の社会福祉協議会の介護専門学校長と男性介護研究会（於立命館）で5年前に介護実践の本を作ろうということ発足したものである。5年間、紆余曲折はあったが、2・3ヶ月に1回研究会を持ち、専門討議を経て、現場の労働者と研究者の力でできた本である。結果的には、10人の現場実践家の執筆論文となった。

本書の意義は、準市場化された（との指摘がある）介護保険法を根拠にした介護実践が、ややもすれば人格の交流を抜きにした「介護サービス」の売買に傾斜しつつあることを苦慮し、今一度、療育実践、介護実践の歴史をふり返りそれぞれの本質を見出そうとするとところにある。

また、この本の編集は本学の鴻上圭太氏と佛教大学福祉教育開発センターの北垣智基氏、若き教員2名である。私が中心にかかわったことは本学の誇りとも考えられる。しかし、この本の目的でもある「重症者療育で積み重ねられてきた発達保障の実践を高齢者介護実践につなげる」ためにふさわしく、若き教員2人もが両分野にかかわっていたことにあると考えている。

そして、30代～80代の幅広い執筆グループが結成され、グループメンバーのうち、研究者の立場としては、当事者（障害者）の河野勝行氏、医師の杉本健郎、埴田和史、経済学の池上惇氏らがいる。

この本は本屋で山と積まれたいわゆる“ハウツー本”などではなく、前述した切り口での専門書であり、日本ではじめての新しい視点を示す書物である。

とはいえ、不十分な点もあり、執筆者の発達保障と今後の実践のためにも多くの皆様からのご批判をお願いする。

*大阪健康福祉短期大学 名誉教授
連絡先：藤本 文朗
〒590-0014 堺市堺区田出井町2-8

